

今月の論語

朋^{とも}有り遠方より来たる
亦^{また}楽しからずや

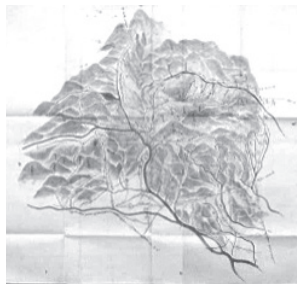
友達がひょっこり遠くから訪ねてきた。こんなに楽しいことはない。

今月の帰宅放送は、東原岸舎東部校9年 平 裕志さん(東多久町)です

▶絵図(拡大図)
現在の日光市鬼怒川温泉付近



▶絵図(縮小図)
東は那須塩原市、矢板市、塩谷町、東南はさくら市、西は日光市付近(現在の市名)



(三) 戊辰戦争関連絵図

江戸時代末期、慶応四(1868)年五月末、十一代領主多久茂族は、約440名の兵を率いて伊万里港から出港し、東京品川に到着します。六月中旬から野州(栃木県)に向かい、戦闘が開始されます。八月下旬に白河街道を西北へ進み、会津若松に至り、アームストロング砲を使うなど、九月下旬まで戦っています。

この間、佐賀藩は主たる街道沿いの情報収集を行っていたと考えられます。右上の絵図(多久市郷土資料館蔵)には、会津西街道の様子がくわしく描かれています。絵図(左上)には、東岸に「此所賊徒棧ヲ落ス仍チ大炮引ガタシ」「此所賊關門ヲ立ル川中に「筏渡二十人乗」「川幅三十間位」「此所橋焼失ノヨシ」などと記され、緊張感が伝わってきます。

慶応四年(九月改元) 明治元年頃の激動期を示す絵図です。

多久市郷土資料館長 藤井 伸幸

江戸から明治へ、肥前たく幕末維新百五十年

教育

教育長コラム

ちよっといい話



「忘れられない教訓」

歓声と水しぶきのプール。

車椅子で球技をこなす中学生のM君とY君は、胸板と上腕筋が発達していて、下肢にハンディがあることを忘れさせた。しかし、プールでは車椅子から降り、動かない下肢を引きずり上腕の力だけで階段をよじ登る。痛々しかった、足裏が傷むほどざらつくコンクリートの階段と床に肌をこすっているのだ。

目が釘付けにされている間に、意気揚々と水に飛び込んだ。すると、車椅子から降りると驚くほど小柄だった彼らが、途端にいつもの逞しさをグイグイ泳いで遠くへ行った。「できないこと」への同情より、「できること」を伸ばす教育姿勢へ、若かった私を変えた夏のプールサイドの忘れられない光景だった。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆目にしみる汗ふきながら土起す
小さき如も老いに手ごわし

川浪 信子

◆「こんにちは」の前に「暑い」が先に出る
気狂ひのごとき日照り続きて

本村 則子

◆われの身はピンピンコロリを願うても
はたして天はゆるし給うか

福島那智子

◆西郷と大久保タイプどっちが好き
日曜八時ドラマの後で

梶原恵美子

◆決めたんだ今を大事に生きてゆく
結果はいつもシンプルでいい

野崎 隆幸

◆梅雨明や項に痛き日の光

倉成 皓二

◆山門を抜ける風音 沙羅の花

富樫 明美

◆風鈴の音に癒さるる夕べかな

中嶋 清子

◆頂の未だ見えてゐる梅雨の霧

武富 律子

◆ばんばんと蓮開く音やさしかり

おおよ はな

◆年号が変わる期待の新時代

西山 残月

◆破られるために作った新記録

松下 修

◆容赦なく地面をたたくゲリラ雨

高塚ちかこ

◆天国へ遅刻する気の医者がよい

大谷 和

◆近道と思って辿る迷い道

古井のぶこ

— 川 柳 《多久市川柳会 互選》 —

俳 句 《互選》

短 歌 《麦の芽短歌会 互選》